

## 園長だより「両手で渡す」 第25号

皆さんはどなたかにものを渡すときにどのように渡しておられますか。感謝の気持ちを伝えるために何かを相手の方に渡すときに片手で渡す方はおられませんよね。必ず両手で持って渡します。そして相手の方も両手で受け取ってください。これはものだけでなくお互いに心も一緒に受け渡しをしているからです。

私は幼い頃から両親に目上の人に対してはもちろん、年下の人に対しても「人にものを渡すときはどのようなものであっても両手で渡しなさい。」と言われてきました。もちろん両手で持てないような小さなものもありますが、できる限り誰に対しても両手で渡すことを心がけてきました。私が両手で渡しても横柄に片手で受け取る方もたまにいましたが、私がそうすることでほとんどの方は両手で受け取ってくださいました。

私たちは否が応でもたくさんの人と関わりながら生きています。「生きる」ということは「関わる」ということなんだと思います。私たちは生き続けていく限り、色々な人、色々なものと関わり続けていかなければならないのです。たくさんの人と関わり合っていく中、「両手で渡す心」は人との関わりをスムーズにする一つの大きなソーシャルスキルになっているような気がします。

ものを「両手で渡す心」は今、目の前にいる相手のことを大切に考え、相手の立場を尊重するということです。「ありがとうございます」「おかげさまで」両親が私に一番教えたかったのはいつもそんな気持ちを持って人と接していきなさいということだったのだと思います。その教えのおかげで私もそれなりに周りの皆様に大きなご迷惑をかけることなく、今日まで一社会人してどうにか過ごしてこれたように思います。

昨年度から毎週火曜日にゆめ組の子ども達とボール遊びに取り組み始めました。今年度はそら組の子ども達ともボール遊びに取り組もうと思っています。

ボールハンドリングやキャッチボールをしていく中で子ども達の習熟度に合わせて、ポケモンシュートゲームなどにも取り組んできました。1月からはドッジボールにも取り組みました。ドッジボールを始める前と後には必ずお互いに整列して向き合い、「よろしくお願いします」「ありがとうございました」という挨拶をしています。子ども達には「みんなでドッジボールを楽しむためにお友だちが2チームに分かれているだけで決して敵チームじゃないんだよ。相手チームのお友だちがいてくれるから自分がドッジボールを楽しむ。だからそんな気持ちで最初と最後に挨拶をするんだ。」と伝えています。

### 「あなたがいるから私が楽しい」

子ども達にはそんな気持ちを育ててほしいと考えています。

お友だちの良さを認め、お友だちを思いやり、お友だちを大切にする。それができるようになることで自分自身も大切に考えられるようになります。子ども達の自尊心はそうして育まれていくのです。